



2020年6月1日発行
 (毎月1日発行)
 1984年8月15日第3種郵便物認可
 発行所/(公財)熊本YMCA
 〒860-8739
 熊本市中央区新町1-3-8
 Tel 096-353-6397代



熊本YMCA学院 建築科1996年卒
 Space Lab. 一級建築士事務所 佐藤 健治 さん

「ものづくり」への想いと共にYMCAへ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、長期にわたる外出自粛を経験し、「家」という空間の大切さを改めて感じている人も多いのではないのでしょうか。熊本市東区にある「Space Lab.」を営み、一級建築士として活躍する佐藤健治さんは、YMCA学院建築科の卒業生。注文住宅や大型建築物まで、木の質感を生かしたシンプルで心地よい空間づくりに取り組んでいる佐藤さんにお話を聞きました。

阿蘇郡南小国町ののどかな環境で生まれ育った佐藤さん。子どもの頃から地元の大工さんの姿を見て、「人の手のぬくもりが感じられるものづくりって、いいな」と思っていたことから、建築関係への進学を目指しました。YMCAを選んだ理由は、「熊本で建築を学べる学校の中でも一番歴史が長くて、実績もあるので、しっかり学べると思った」から。佐藤さんは「学生時代は、アルバイトで学費や生活費を稼ぎながら学んでいたのが、本当に忙しかった」と語ります。たくさんの仲間たちや先生と共に学び、朝や晩はアルバイトに勤しみ、ただただ一生懸命に過ごした2年間でした。

ぬくもりある家づくりに魅かれて

理想の家づくりを求め、学び続ける日々

佐藤さんが興味を持ったのは、施主との距離が近く、かつ自分の意図が建物に反映される「住宅の設計」でした。専門学校卒業後は地場の大手住宅メーカーに勤め、設計以外にも、お客様との打ち合わせや見積、現場の職人さんとのふれあいなどを経験。充実した毎日を過ごしますが、そのうち、「どんな家を建てるか」よりも「何棟建てるか」を考えている自分に気づきます。「人の手のぬくもりが感じられるものづくり」にあこがれて建築家を目指した佐藤さんは、既製品を組み合わせる仕事では、物足りなさを感じるようになりました。

仕事の在り方を模索していた頃、ふと立ち寄った設計事務所の完成現場見学会で、佐藤さんは自分の理想に近い家づくりと出会います。「木をふんだんに使い、ゼロからオーダーメイドしていく。“遊び”の空間もあって、おもしろい」と興味を持ち、住宅メーカーでの仕事を続けながら、その設計事務所ですること。「朝7時から設計事務所勉強してその後、仕事に。終業後も通いました。忙しくも、楽しくて有意義な時間でした」と振り返ります。二級建築士の資格を取得後は、その事務所に関わる施工会社へと転職し、「理想の家づくり」へのステップアップを果たしました。



「くつろぎ」をつくり続ける

施工会社に勤務しながら一級建築士となり「Space Lab.」を立ち上げて10年。「何度も打ち合わせをしますし、手間暇かけてご家族に合わせた家づくりを目指しています」と佐藤さん。「私は、家族がリビングに集まる家づくりをコンセプトにしています。それぞれが自室にこもるのではなく、一緒に過ごしてほしい。外出自粛の状況でも、家で過ごす日常生活の延長と考えれば、大切なことは変わらないと言います。「リビングに自然の光を採り入れたり、本棚を作ったり。明るいと影になっているところ、高いところ、低いところをつくって、その時、自分が過ごしたい場所を選ぶ。家族がより心地よく、楽しみながら過ごせる空間を提供していきたいですね」。

佐藤さんは県内の建築家が集い、建築を通して熊本に貢献することを目指すグループ「kulos(クロス)」に所属。熊本地震を受け、仮設団地内の「みんなの家」や災害公営住宅の設計にも携わりました。「住民の皆さんができるだけ平等に使えるように交流施設の配置を考えるなど、家づくりを超えた『街づくり』まで意識した仕事は、大きな経験になりました」。時間も手間も惜しまず全力で挑み続ける佐藤さん。だからこそ、佐藤さんが手がける建物からも情熱や優しさが感じられるのでしょう。「これからも、一棟一棟着実に、そこで暮らす人たちの方をしっかりと向いて励んでいきます」。



kulosが設計した「みんなの家」

この困難を乗り越えて

熊本では緊急事態宣言の解除を受け、街が日常を取り戻しつつあるように見えます。ところが、この危機を脱したとしてもすべて元通りということはありません。皆が感染防止を図りながら「新しい生活」を送ることになります。

様々な活動や催しが見合わせとなり、休校が続く中、YMCAでは子どもたちの預かりや特別プログラムの実施、オンライン授業の導入などを通して、子どもたちや人々の健康と安全を見守ってきました。長い外出自粛で生じたストレスや運動不足の解消へ期待の声も寄せられています。YMCAは、見えない不安からいじめや差別が生まれないように十分配慮しながら、安心・安全な運営に努めます。また、生活困窮家庭のプログラム参加や留学生を支援していきます。新たなつながりの創出に向けて、皆さまのお力添えをお願いいたします。



研修

異なる立場を理解する 新入社員ボランティア入門講座

4月6日(月)、桜が咲き誇る中で開催されたYMCAフィランソロピー協会主催の新入社員ボランティア入門講座。今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、様々な対策を講じて行われました。

指導を担当したのは、福祉専門職として働くYMCA職員の吉田美華さん。講座には5企業・団体の13名が参加し、食体験と車いす操作に挑戦しました。

食体験では、例年参加者がペアになって食事を食べさせ合っていた「食事介助」を変更し、一人ひとりが一定の距離を保ったうえで、利き手を使わずにゼリーの蓋を開けて食べるまでの不便さを体験。自

分の利き手の大事さや思いどおりに行動できないもどかしさを感じました。続く車いす講習では、車いすの操作方法について説明を受けた後、乗る側と見守る側に役割を決め、街中での乗車も体験。慣れない自走で段差につまずき、ヒヤリとする場面もありました。

参加した新入社員らは、「“ボランティア”は相手ができないことは何かを考え、相手ができることを活かすように手助けすることが大事だということを知りました」と話し、普段と異なる立場に身を置くことで様々な気づきを得ました。

職員 原美幸



防災

熊本地震から4年 保育園に防災倉庫を設置

2012年九州北部豪雨災害、2016年熊本地震の経験をふまえ、YMCA尾ヶ石保育園は、防災倉庫を設置し、4月14日(火)に開所式を実施しました。1棟は、発電機やチェーンソー、スコップ、高圧洗浄機等の災害備品の保管、もう1棟は、災害時に地元の消防団や区長との情報交換ができるコミュニティ・スペースとして利用できます。また、倉庫横には、昨年完成した非常時の炊き出しにも活躍するピザ窯もあります。

熊本地震以降、YMCAが運営する阿蘇の4つの保育園が5つの仮設団地で行っていた被災者支援を

終え、現在は、子どもたちや保護者のケアを行いながら、子どもたちの成長に関わっています。

阿蘇では、JR豊肥線が8月頃に復活し、10月には、国道57号線、また、阿蘇キャンプ近くの「二重の峠トンネル」が開通します。新阿蘇大橋は来年の3月には完成予定です。YMCA阿蘇キャンプでは、これまで7,300人を超す国内外のユース・シニアが災害支援ボランティアに参加し、地域コミュニティの形成に活躍しました。これからも“平時が非常時の鏡”と捉えて、地域防災力の強化を推進していきます。

職員 久保誠治



あなた自身と、あなたの周りの
誰かのいのちを守るために。

新型コロナウイルス感染防止

子どもたちの支援のために

日本のYMCAでは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、「#はなれていてもつながっている」をキーワードに、集団行動を控え、適切な距離を保つことなどを呼びかけ、「安全のために物理的には離れていても、いつでもつながっていよう」と伝えてきました。

熊本YMCAでも3月からプログラム等を休講。学校休校が続く中、子どもたちや家庭を支える活動を行いました。ストレスを感じ、日々の生活を送る子どもたちを対象に、リフレッシュデイキャンプをみなみ、ながみねファミリー、むさしの3センターで実施。遊びを通してやりたいことをみつける、仲間とつながることを目指し、のびのびと活動できる機会を提供しました。

ながみねファミリーセンターでは、3月25日(水)から27日(金)、4月1日(水)から3日(金)までの計6日間で延べ123名が参加しました。初日は緊張している様子の参加者もいましたが、遊んでいるうちに新しいお友だちができた様子。帰りには「また来たい!」と笑顔を見せてくれました。

公園で遊んだり、ウォークラリーをするなど、野外での活動を中心とし、グループワークの手法を用いて、子どもたち一人ひとりの安心と安全を守りました。保護者からは、「子どもが本当にリフレッシュできたようでした」「家に引きこもって運動不足でしたが、久しぶりに思いっきり遊ぶことができて楽しそうでした」などの感想が寄せられました。



リフレッシュデイキャンプ



学童保育ユナイト

また、3月から行ってきた子どもの居場所プログラムに続き、4月27日(月)からは「学童保育ユナイト」を展開。対象は医療従事者やひとり親家庭、共働き家庭で、小学生の子どもたちの学習サポートやレクリエーションを行いました。毎週火曜日に中央センターで行ったボランティア講師による硬筆教室では、先生に“はなまる”をもらった子どもたちがとてもうれしそうな様子。YMCA学院の学生もボランティアとして活躍するなど、様々な人たちの協力を得ながら運営を行いました。

#はなれていてもつながっている

熊本、全国、世界のYMCAから動画で情報を発信しています。



YMCA学院 Webサイトリニューアル

2021年4月に新校舎への移転を予定する専門学校YMCA学院。これに先立ち、Webサイトがリニューアルしました。こども保育科、ホテル観光科、医療秘書科、健康スポーツ科、建築科、グローバルコミュニケーション科、各学科の魅力と最新情報をお届けします。



2020年度 会員大会のご案内

例年5月に開催しておりました熊本YMCA会員大会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、6月26日(金)に延期いたします。動画配信やWebサイトでの資料掲載等を行い、オンラインでも参加していただけるように準備を進めています。

6月中旬に、会員の皆様へご案内を郵送いたします。

〒967-0001 熊本YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397



想いを新たに

新型コロナウイルスの脅威に世界中が不安と混乱に直面しています。医療従事者はじめ、使命感を持って働きを行っている方々に感謝の意を表します。私たち一人ひとりが自分を大切にすること、自分と同様にひと、もの、そして自然などに敬意をもって、よりよく生きることの大切さを改めて知った出来事なのではないかと思えます。

熊本地震から4年が過ぎ、私たちが経験した事を覚え、改めて大規模災害に備えることの大切さを再確認しています。

熊本地震当時、熊本YMCAが指定管理者として運営する「益城町総合運動公園・総合体育館」、「御船町スポーツセンター」が避難所となり、YMCAがその運営を担いました。ピーク時には益城は1700名、御船は300名を超える人々が避難しました。また、YMCA阿蘇キャンプではボランティアセンターとして多くのボランティアを受け入れ、今も活動を継続しています。

益城町総合体育館は、2016年10月の避難所閉鎖後に解体されましたが、2020年7月の再開に向けて準備をしています。震災復興のシンボルとして期待されることです。

2016年10月より、YMCAの支援活動の場は

各避難所から仮設団地へと移りました。今年6月には益城町の仮設団地の集約が始まり、木山仮設は現在の30世帯から80世帯ほどに増加します。これに伴い新たなコミュニティづくりを行っていくことになります。

熊本YMCAが指定管理者として、益城町と御船町に関わったこと、地域の方々に寄り添ったことなどがYMCAの使命を实践する場と機会となりました。人々の心の平和の輪を広げる公益協働に取り組みながら、ますます必要とされるYMCAでありたいと思います。

未来が見えることにより、人々の心も希望へと変化しています。世界を見つめ地域に生きるYMCAとして、地域の人々と共に平和な世界の実現に努めていきたいと思えます。

YMCA学院 オンライン授業

専門学校YMCA学院では、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、4月から休校措置がとられました。そこで、新年度の授業を開始予定だった4月9日(木)から一部の授業をオンラインで行いました。

双方向のコミュニケーションが可能なオンラインツールを使って、従来どおり出欠の確認からスタート。自宅にいる学生らとお互いに顔を見て、声を聞きながら授業を進めることができました。

学生からは「通常とは違う形ではあるけれど、授業ができて安心した」などのポジティブな言葉が多く聞かれました。収束の見えない現状に素早く対応することで、学生や保護者に安心してもらうことができたと感じています。新型コロナウイルスによる影響はありますが、悲観的になるだけでなく、今を生きる学生とともに、変化に対応していく学校でありたいと思えます。

職員 横山純一郎



子どもプログラム クラス再開

3月から一部を除いて休講していた子どもプログラムが、5月18日(月)に再開しました。こどもスポーツスクールでは、クラス再開に先立ち、13日(水)と14日(木)にプレオープンとして体操、水泳教室の特別プログラムを実施。中央(体操のみ)、みなみ、ながみねファミリー、むさしセンターで延べ390名の子どもたちが参加しました。入り口での手の消毒の徹底や少人数での更衣室利用など、感染予防に取り組んでいます。

久々の参加に戸惑う様子の子もたちもいましたが、リーダーとの再会を喜ぶ姿がたくさん見られました。休講期間中の体力低下を心配する保護者も多く、「久しぶりに運動ができてよかった」「またYMCAに来られる日を待っていました」などの声が聞かれました。



YMCA阿蘇キャンプ テントサイトオープン



YMCA阿蘇キャンプでは、ご家族でリフレッシュできる機会を提供したいと、期間限定でテントサイトをオープンします。テント、備品の貸し出しや、バーベキュー食材の準備も可能。自然豊かな阿蘇でゆっくりとお過ごしください。

場YMCA阿蘇キャンプ(阿蘇市車帰)

回土・日・祝日 入場料 1名500円(小学生以上) テント持ち込み 1張 1,500円 入浴料(※要申込) 1名300円(4名以上の利用から)
要予約 1週間前までに電話にて受付
YMCA阿蘇キャンプ Tel 0967-35-0124

キャンプ用品のレンタル、バーベキューの費用等、詳細はWebサイトをご覧ください。

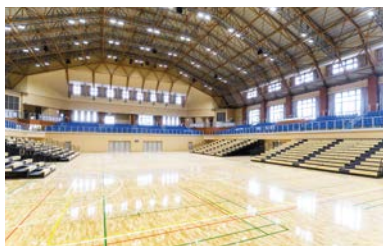




益城町総合体育館 7月より利用開始

熊本地震の発生後、県内最大規模の避難所となり、再建が進められていた益城町総合体育館がついに完成。7月7日(火)から利用開始予定です。熊本YMCAは、地震前に引き続き指定管理者として運営を再開します。5月8日(金)より体育館窓口での受付業務を開始し、一部見学も可能です。

2つのアリーナと、武道場、トレーニングルーム等を備えた体育館です。また体育館のある益城町総合運動公園内には、陸上競技場やテニスコートなど屋外施設も充実しており、様々なスポーツが楽しめます。地震からの復興の象徴である体育館を中心に、心と体の健康づくりと、スポーツを中心にしたコミュニティーづくりを行い、地域の皆さんが笑顔で活動できる場所づくりを目指します。ご来館をお待ちしています。



メインアリーナ

バスケットボールコートが2面とれる広々としたアリーナです。バレーやバドミントンなど様々なスポーツが楽しめます。観覧席も充実しており、大規模なスポーツ大会などにおすすめです。



サブアリーナ

バスケットゴールが常設されており、バレー、バドミントン、卓球などが楽しめます。空調完備で音響設備もあり、小中規模のスポーツ大会や催しにおすすめです。



トレーニングルーム

トレーニング初心者から経験者の方まで利用しやすい、最新のトレーニングマシンが充実しています。体力づくり、健康づくり、リフレッシュのためなど、様々な目的に合わせてご利用いただけます。



テニスコート・陸上競技場

体育館完成に先立ち、2019年4月からオープン。テニスコートは砂入り人工芝のオムニコートが6面。陸上競技場は4種公認400mトラック、人工芝サッカー場、外周ランニングコースがあります。

「自宅でたいそう」Web動画公開中

益城町総合運動公園では、新型コロナウイルス感染症の影響で運動不足になりがちな皆さんの健康づくりに役立てていただきたいと、「YMCA自宅でたいそう」動画配信を開始しています。ご自宅で、動画を観ながらチャレンジしてみてください。



益城町総合体育館 陸上競技場等体育施設 予約方法

体育館窓口でID(利用者登録)申請後、HPよりネット予約してください。通常は1カ月先、益城町内の利用者および団体は2カ月先までネット予約が可能です。トレーニングルームは初回オリエンテーション受講が必要です。詳しくはお問合せください。

お問合せ先 益城町総合運動公園 (Tel 096-289-2433)
〒861-2242 熊本県上益城郡益城町木山236

わたしと聖句



日本キリスト教団荒尾教会
佐藤真史

ルカによる福音書 24章 36節

イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

真ん中で、共にあるイエス

「あの日から、なかなか眠れず、薬を飲んでも眠れないんだ。」

仙台で被災者支援センターのコーディネーターをしていた時、毎日のように訪問させていただいた仮設がありました。そこに住むHさんが、お茶の時に、ボソッと言われた言葉です。「あの日」とは、Hさんが津波に遭い家族を、すべてを失った日のことです。

新型コロナウイルスによる感染が蔓延するいま、世界全体でこれほどまでに多くの人が「平和」と「愛」、そして「つながり」を必要としたことは、ないかもしれません。でも実はこれまで、東日本大震災や熊本・大分地震で、各地の災害で、日本社会の歪みの中で、求めている人たちは沢山いました。そのことも、祈りに覚えていきたいと願っています。

イエスは十字架に架けられ殺され、三日目に復活しました。恐れ逃げ隠れていた弟子たちの「真ん中に立ち」、「イエスが言った言葉。それは、「平和があるように」でした。単なる慰めではありません。恐れおののいている人たちの真ん中に、復活したイエスは共にあり、神の平和・愛・つながりを分かち合っているのです。

復活したイエスは、眠れない夜を過ごすHさんと共に、そしていま、病床で苦しむ方たちと、必死に医療活動を行う医療従事者の方たちと、休校・休園になり家で過ごした子どもたちと、不安を抱えている一人ひとりと、共にいて下さっています。

みなさんに、神の平和がありますように。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)

発行人／岡成也 編集人／日野 充裕
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウェルネス活動 平和な世界

2020年度基本聖句

テサロニケの信徒への手紙一 5章13節
愛をもって心から尊敬し 互いに平和に過ごさない。